

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 032	提案機関名 畜産技術センター
<b>要望問題名</b> 家畜ふんの強制発酵機の排気から出た排水の効率的処理	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 畜産技術センター企画研究課では、家畜ふんの強制発酵機から出る排気(熱)を、熱交換器を通すことでエネルギーとして活用する研究を行っている。排気が冷やされた際には結露水が発生すると思われるが、そこに水溶性の悪臭成分が吸収され、排気の悪臭成分も低減していると推測される。 また、熱交換をしなくても、排気管を屈曲延長することで、同様に悪臭成分が溶け込んだ水が発生すること、以前の試験研究で確認されている。 これらの水の効率的処理方法が確立できれば、排気の臭気軽減に結びつくと考えられるので、研究願いたい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	畜産技術センター	<b>担当部所</b>	企画研究課
<b>対応区分</b>	①実施    ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合)		
<b>対応の内容等</b>	本県に導入された密閉縦型発酵装置（以下コンボ）の脱臭は、おが屑脱臭槽で脱臭されていますが、近年導入されたコンボには軽石を用いた脱臭槽が付帯されています。軽石を用いた脱臭方式では、充填資材をおが屑から軽石に替え、さらに脱臭槽上部から循環水を散水することで、脱臭効果がおが屑脱臭槽に比べ継続することが明らかとなっております（備考）。しかし結露水や軽石脱臭槽の廃液は、アンモニア等の窒素を含んでいることから、適切な水処理（窒素低減処理）を図る必要があります。 本県には、水循環方式の軽石脱臭槽が導入されていないことから、今後水循環方式の軽石脱臭槽の維持管理方法について検討するとともに窒素を含んだ結露水や循環水の処理について検討したいと考えております。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>	群馬県畜産試験場 軽石を用いた脱臭装置 : <a href="http://www.pref.gunma.jp/07/p18210021.html">http://www.pref.gunma.jp/07/p18210021.html</a>		